

## 地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重
  - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
  - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
  - (4) 安心と安全を支える支援
  - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
  - (1) 居心地のよい環境づくり
  - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

### V. サービスの成果

#### ※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

#### ※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム安芸

ユニット名 りんどう

自己評価実施年月日 平成 21年 2月 17日

記録者氏名 川田 芳江

記録年月日 平成 21年 1月 31日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりのペースで共に暮らしている我が家であること。地域の中でいつでも気軽に寄ってもらえるよう、開かれたホームを目指しての理念を作っている	○	地域の中に出かけて地域参加を実施していく
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員室内に掲示し、毎朝の申し送り時やミーティングの時など医師気づけて確認している	○	新しい職員や異動のさいには必ず理念の説明を行っている
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関、入り口の見えるところに掲示し、入居時や契約時には説明を行っている。又見学者や外部の人にも訪問時には説明をおこなっている	○	ホーム便り等の準備中
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時や外出のときには挨拶をし、近所で出会う方とは顔なじみになっている、近くの喫茶店でも顔なじみになっており交流できている		
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	昨年同様、地元の小学校の運動会や産業祭、ターゲットマラソンの見学は実施できたが、自治会や地域の行事への参加は実施できていない。	○	今後、地域活動への参加を行いたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	安芸市指定の避難場所となっており、それに伴っ て災害時や緊急避難時の地域との協力体制に取り 組んでいる。	○	年に一度の防災祭りを開催し恒例行事としてい き、地域住民の方との交流を深めていきたい。事 業所としても地域の訓練等に参加していきたい
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、各職員への報告、話し合いをすることで 意義を理解し改善につなげるよう努めている	○	評価を受けることにより指摘を受けより良いグ ループホーム作りをしていきたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	事業所の取り組みや、入居者の状況などを報告を おこない、行政や地域の方からの意見や助言をい ただけている。	○	意見を聞き運営者・職員・入居者の家族に報告し サービス向上に向けて今後も取り組んでいく
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	報告や連絡がある際は、電話や窓口に出向き話を する機会はある	○	行政主催の研修会等への参加を今後も継続してい く
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者も居るが、職 員全員が十分理解できているとはいえない。	○	研修会の案内などいただくが参加はしていないの で、今後参加したい。ホーム内での勉強会の実施 ができるように検討していく
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	法人内や外部での研修への参加を行うようにし、 職員へも伝達を行っている。ホーム内での虐待や 身体拘束が行われることが無いように注意を払う ようにしている	○	研修会とうへの参加と勉強会を今後も行っていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	相談時や入居の際、十分な説明を行ったり、それ以外にも必要な際には話を聞いたりしている	○	入居後も面会時や電話にて話をする機会を作り対応している
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者に対して、日々の生活を送る中での会話から聞き取ったり、不満や意見を言える雰囲気作り、環境づくりに努めている		
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	面会時に近況報告を行ったり電話連絡を行うなどしている。金銭を預かっている方については使用状況を報告している	○	ホーム便りの発行の準備を早急にすすめていきたい
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情申し入れ機関の設置、入居時には説明をしている。		
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的なミーティングの場を持ち、業務の見直しなどがあれば聞けるようにしている。なにかあれが職員間で話し合いの場を持つようにしている	○	日々の業務内でも意見を出しやすい関係作りに努めていく
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者やその家族に合わせての勤務変更等を行いながら調整している	○	入居時の生活や状態、必要に応じて職員を確保する事などの勤務体制作りは今後も調整しながら行っていく

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動がある際にはユニットの利用者についての特徴など情報を伝達し、利用者の負担にならないように努力をしている	○	ユニット間での異動も出来るだけ利用者に負担がいかないように対応をしていく
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は年間計画がたてられており研修を受ける機会が確保できている。法人外への研修においては参加が少ないが出来るだけ参加できるように努めている	○	今後も法人内外の研修への参加を継続していく
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会、案内のある研修会には出来るだけ参加をしている	○	行政の働きかけもあり他事業所との交流会を今後開催する予定
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	いつでも相談できるようになっている。旅行や食事会などでストレス軽減につながっている	○	ストレスの原因などを話の中から聞き取り助言や相談をするようにしている。気持ちよく仕事出来る環境づくりをしていきたい
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	定期的な報告を行い勤務状況は把握されている。研修会や勉強会の機会はあるので職員各自へ参加ができるように努めている	○	各自向上心をもって働けるように研修会や勉強会への参加ができる様に働きかけていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係  相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面接時には話をしたり、来訪の際には話を伺っている。利用開始後も様子を観察したり会話を持つようにしている。	○  本人との面接を行い思いや希望を聞き、不安なく入居できるようにしていく
24	○初期に築く家族との信頼関係  相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談後も連絡を入れたり連絡があった際には納得行くまで話を聞くように対応している	○  家族の方が思いを伝えられるような問いかけなどをしながら、話せる雰囲気作りに配慮していく
25	○初期対応の見極めと支援  相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の状況に応じて他のサービス機関の説明や関係機関へ援助を行っている	○  状況・状態を見極めて、適したサービスが受けられるよう今後も継続して対応していく
26	○馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来ていただき職員や入居者と少しはなしをしていただくなどの対応で徐々に進めていく	○  いきなりサービス開始をするのではなく家族や本人との話し合いですすめていくよう努める
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ゆっくりとした時間の中での作業や家事を一緒に行いながら色々な生活の知恵や工夫を教わったり、ささえあう関係を作っている	○  昔の話などを行いながら、互いに支えあいながらのホーム作り継続していく。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事を行うときには家族にも参加していただけるような働きかけを行い、入居者を一緒に支えていけるように協力をお願いしている	○	本人や家族の思いを十分に聞き、できるだけ希望に沿った生活を送れるように今後も継続して取組んでいきたい
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の面会時や電話でのやりとりの時に情報交換しながら良好な関係が保てるように努めている	○	行事や外出の際にはよりよい関係作りができるように今後も支援を継続していく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話が成立しない方も中にはいらっしやるので間に入って昔話を聞きだしたり、思い出してもらえるように援助したり。来られた方には次も気軽に来ていただけるように声を掛けている	○	馴染みの人や場所など、関係が途切れないように外出の機会を作ったり、今後も支援していく
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の相性や個々の性格を理解しながら、良い関係作りが保てるように支援している	○	ユニット合同の行事なども定期的で開催し、馴染みの関係作りを今後も継続していく
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後においても相談があれば随時受け付け、対応ができるように努めている	○	退居時には継続して相談を受けれる体勢がある声かけをおこなっていくように今後も継続していく

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けや会話の中で本人や家族の思いを聞き出し把握に努めている。困難な方については家族と相談をおこない検討している	○ 希望や思いは家族に伝えて個別に対応している
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から昔の生活について情報を集めるようにしている	○ 情報シートにまとめ、職員全員が見れるようにファイルしている。新しい様式のものへの変更を現在取り組んでいる
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々にあったペースで生活ができるよう、できる事を把握できる様に日々取り組んでいる	○ 個々の力に応じたケアを実施できるように今後も計画を作成していく
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	介護側が一方的にならないように多方面からの意見を聞きながら計画作成ができるように努めている	○ 計画に沿った記録ができる様に今後も取り組み、家族や本人・職員で話を行いながら入居者本人にあった介護計画を作成できる様に努めたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	生活を送る中で現状把握に努め、変化が見られた際には必要に応じて、その都度関係者と話し合い現状に即した計画が立てられるように努めている	



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や連絡帳を活用しながら職員間の情報の共有を図り、統一したケアが行えるようにしている	○	記録様式については変更をし、見やすく分かりやすい記録になるよう改善を行っている
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の家族すべてにおいて十分に話をする時間が取れているとはいえないが、必要に応じて話をすることを心がけている。又柔軟に対応ができる様に努めている		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災訓練の際には地域の方や消防の方にも協力をいただいている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	必要なときには連絡をとったり、それ以外でも情報交換をすることもある		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議の際には出席していただく等、日頃から地域包括支援センターとの協働に努めている	○	今後も必要な場合は十分な対応を図る

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来るだけ家族の希望にそった病院に受診できるように努めている		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	関係医師との連絡相談のできる態勢は整っている	○	家族からの相談はいつでも受けられ、対応ができるように努めていく
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在ホームに看護師はいないが、併設のためケアハウスの看護師に相談したり状態を見てもらうなどの協力をしてもらっている	○	今後看護師の配置を検討していく
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には病院に足を運んだり、状態把握ができる様に家族や病院側との情報交換を行い、早期の退院に努めている		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	契約時には終末期についての話をし、家族や本人の意向を聞くようにしている		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている		○	対応できる態勢作りに向け検討していく

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	今後も情報交換を十分行っていく
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>			
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	ミーティングや申し送り等にて話を定期的に行っている
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	一人一人の暮らしの中でその人らしさや生活ペースを知り、入居者様の思いを聞きながらの対応を実施している
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	○	好みの衣類を買いに出かけたりする援助を必要に応じて行っていきたい

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	下膳をカウンターまで運んでもらったり食器を洗ってもらったり、力に応じた対応を実施している
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	買い物と一緒に同行してもらい食べたいものなどを買ってくる機会を作って対応している
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	薬に出来るだけ頼らない食生活と活動、水分摂取で自然排便ができるように支援しているが、下剤の服用についても必要に応じて服薬援助している
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	できるだけ生活に合わせた入浴である
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	落ち着けずいたり休めずにいる人には、側に付き添って話をし、落ち着くまでの対応に努めている
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	役割を持ったり、楽しみなどを持つことが出来たり、生きがいとなるような取り組みをマンネリ化しないように工夫しながら継続していく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で小額を持たれている方もいる、外出や販売車が来た際は自分の財布よりお金を支払うようにしている	○	外出の機会を今後も持ち、お金を使う機会を作っていきたい
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩に出かけたり、喫茶店に出かけたり戸外に出かけられる援助を行っている	○	天候や体調に配慮しながら外出の機会を多くしていきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	気分転換に出かけたいという希望も聞かれるため、他利用者と共に出かける計画を立てている。又家族が出かける機会を作ってくださっている	○	ふるさと訪問のような外出も取り入れ、家に帰れない方にも家の近くまでいったり、家族の協力も得ながら取組んでいきたい
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたり、かかってきた電話へのやり取りができる様に援助している	○	かけたいと希望が聞かれる際には家族の協力も得ながら対応している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の意向も聞きながら、いつでも来訪していただけるような声掛けをおこなっている		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、意味の理解等声掛けやミーティング・申し送り等にて話をしている。又研修への参加をしている	○	拘束をしないケアの意味を理解し落ち着いて生活できる環境づくりやケアを心がけて対応している。資料やマニュアル等を見やすい場所に配置している


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	○	申し送りノートを活用しプライバシーに配慮しながら安全に配慮している
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	○	安全性を第一に考えユニットミーティングを定期的に行い、物品のチェックなどをおこなっている
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	○	危険性の高いものは夜間、鍵付きの場所に保管するようにしている。ホーム内の環境整備を行い、広く安全に過ごせるように配慮している
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	○	独自の緊急持ち出しファイルを作成し、緊急時には備えている
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	災害マニュアルの作成をしたり避難経路を張り出しいつでも確認できる様にしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	状態の変化や往診の際には医師への相談を行い、随時家族にも医師からの説明をしてもらうなど対応をしている	○	今後も体調の変化には注意し主治医との連絡、家族への報告をおこないながら支援していく
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員それぞれが常に入居者様の状態把握に努め、異常や変化に速やかに対応できる様に努めている	○	情報の共有を行い異常への早期発見につなげ早急な対応が今後もできる様に継続していく
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能・内容・各入居者の病歴等の把握、服薬時の確認を徹底していく	○	薬の管理表の作成、内服薬ファイルを作っているでも確認ができる様にしている。服薬変更があった際には連絡帳に記載し確認するようにしている
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個人の排便パターンを把握しながら、食事内容に工夫をしたり日中の活動で便秘予防につなげている	○	薬に出来るだけ頼らず食事や水分摂取等の工夫をしている。日中の活動にも考慮していく
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	うがい・入れ歯の毎日の洗浄を毎日実施している。定期的に口腔内のチェックをしている		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人にあった量を考えたり、同じメニューにならないような工夫をし、四季折々のものや新鮮な食物を取り入れるなど、習慣性を重視しながら支援している	○	水分については摂取の少ない人について、ゼリーや果物等、工夫をしている。食物についても代替のものを考えたりしている

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染予防については、ミーティングや申し送り等でマニュアルを確認しながら、早急に対応できるようにしている	○	マニュアルや資料の配置、講習・勉強会への参加をしている
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、業務終了前にはまな板・包丁・布巾などキッチン用品・机など消毒をし、衛生面に配慮している。食材については新鮮なものを私用し、期日の確認などをしながら管理している	○	冷蔵庫の点検チェック表での管理や期日の記入など、確認をしながら安全性に気をつけながら取り組んでいる
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	併設のため、1階玄関から分かりやすく表示をしたり、装飾等にて明るい雰囲気を作りやすい工夫もしている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物を置いたり装飾をするなど、気持ちのよい雰囲気作りを心がけている	○	季節に応じたの雰囲気作りを心がけて取り組んでいる
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の隅に椅子を置いたり、いつでも話ができるようにしている		



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	使い慣れた椅子や家具を使用していただけ るよう家族に相談している。馴染みの物 (花や置物)などで落ち着けるよう配慮 している	○	安全面にも注意し、本人にとって落ち着 ける環境づくりには今後も継続して取 組んでいく
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大 きな差がないよう配慮し、利用者の状 況に応じてこまめに行っている	空気の換気は毎日行い、室温等も入居 者に合わせて対応している	○	エアコンの清掃・点検も定期的に行っ ている
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	広く安全に活動できる様に危険なもの は排除して環境整備に努めている	○	本人に会っているかどうかを定期的 にチェックしながら、安全に生活が 送れるように今後も取り組んでい きたい
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	個人の力に応じた生活ができる様に、 見守り、声掛けなどを行うことで未 然に防いでいる	○	一人一人のできる事、作業や家事作 業に参加していただいている
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が楽 しんだり、活動できるように活かして いる	テーブル・椅子等を置きいつでも利用 できたり、散歩が出来るように援助 したり活かしている	○	天気の良い日は、レクリエーション・ 食事会等をしたり、交流の場とし て活用している

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない  契約時や生活を送っていく中で本人や家族から聞き取りをし、意向をつかんでいる
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない  職員と入居者が共にお茶を飲みながら談話をしながら休んだりする場面が毎日ある
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  一人一人が自分のペースで自由に生活が送れるように支援している
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  入居者との時間をもち、生活の支援を行っているが、中には退屈であったり十分だと感じていない方も居られるのではないかとと思われる
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  希望が聞かれたら出来るだけの対応はしているが、未だ十分とはいえない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  特に不安な声は聞かれていないが態勢として十分ではない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんどいない  その時々状況や要望に応じた対応を心がけている。看護師が居ないため主治医との直接の連携で早急な対応を心がけており家族への連絡もすぐに入れるようにしている
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない  面会時、その他電話連絡等にて聞く機会を作り、話している
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない  地域とのかかわりが十分とはいえない、今後の課題として取り組んでいく

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない  グループホームへの理解が少しずつ出来てきていると思われる。
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない  特に問題なく働けている
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  家族様から感謝の言葉を言っていただくこともある
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない  安心してくださっていると感じている

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者のペースに合わせたケアを行っていけるように日々努力している。個性的な個々の入居者が共に生活を楽しく送れるように配慮を行いながら、家事・作業・レクを実施している。